

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況 (令和5年4月1日現在)

学校番号	37	学校名	茨城県立鉾田第二高等学校						課程	全日制		学校長名		海老澤 浩一			
教頭名	宮地 富雄					石塚 高士			—		事務（室）長名		柳橋 孝栄				
教職員数	教諭	48	養護 教諭	1	常勤 講師	12	非常勤 講師	8	実習教諭、実習講師、 実習助手		8	事務職員	6	技術 職員等	11	計	99
生徒数	小学科			1年		2年		3年		4年		合計		合 計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	総合学科			75	106	73	87	88	88	—	—	236	281	15			
	農業科			21	7	13	7	9	2	—	—	43	16	3			
	食品技術科			12	28	16	23	13	16	—	—	41	67	3			
	合計			108	141	102	117	110	106	—	—	320	364	21			

2 目指す学校像

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させて、一人一人が希望する進路の実現を図るとともに、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する地域に信頼される学校。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	- 多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力を育成する。 - 地域社会との連携を推進し、主体的に地域の活性化や振興に貢献する人材を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	- 授業等で、ICT端末を積極的に活用して、学力向上を図る。 - 学校の教育活動全体で、生徒の自律心、人間関係調整能力、思いやりの心などを育成する。 - 体系的な進路指導の体制を構築して、生徒一人一人の希望する進路を実現する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	- 主体的に他者と協働して学習・活動した経験がある、あるいは、意欲のある生徒。 - 希望する進路実現を目指して、継続的かつ計画的に取り組むことができる生徒。

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
特色ある学校づくり	・総合学科の系列、農業科、食品技術科の特色を生かした学習に積極的に取り組んでいる。 ・学校行事において、各系列・学科で連携して取り組んでいる。	・各系列・学科の連携による学びの相乗効果を図る。 ・農業の6次産業化の学習の推進など、学校の特色づくりをさらに進める。
ICT を活用した授業改善の推進と学力向上の実現	・授業で、ICT (タブレット等) を積極的に活用している。 ・各教科等で課題の取り組み状況を学習評価に反映させて、家庭学習の習慣化に努めている。	・教員の情報交換などによって、ICT を活用した授業改善をさらに進める。 ・学習アプリを活用して家庭学習の習慣化と学力向上を図る。
地域産業等の理解促進	・1年「総合的な探究の時間」で、銚田地域の伝統文化の理解に取り組んだ。 ・地域の課題発見・解決に向けた学びに取り組んでいけるとよい。	・地域の産業や文化を理解して、地域に愛着をもち、地域振興に貢献できる人材の育成につなげる。
積極的な情報発信と入学者の確保	・積極的に取材依頼をして、新聞記事が約30回掲載された。 ・新聞記事掲載により、在校生の意欲向上にもつながっている。	・地域の中学生・保護者等に教育活動を周知して、入学者の確保につなげていく。
働き方改革の推進	・退勤時間の設定などにより、効率よく業務を進める意識の醸成など、働き方改革の意識が高まってきている。	・教材の共有化、校務分掌の工夫などにより、働き方改革の実現を進めていく。

5 中期的目標

・多くの生徒が卒業後、地域で生活するため、基礎学力、礼儀、マナーをしっかりと身に付けて地域産業に貢献できる人材を育成する。 ・生徒一人一人の進路希望に応じた指導体制を確立し、生徒全員の進路実現を目指す。 ・働き方改革の推進として、教職員の意識を高めるとともに、教材の共有化、業務の効率化、校務分掌の工夫などを進めていく。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
特色ある学校づくり	・系列の専門的な学習を生かした取組や農業の6次産業化の学習など学校の特色づくりを進める。 ・学校行事等で、地域との連携や、各系列・学科の連携による学びの相乗効果を図る。
授業改善の推進	・毎時間の授業において、一人一台端末を使用する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進めるとともに、基礎学力の向上を図る。 ・生徒の授業満足度の校内平均値の目標を、3.5以上とする。
希望進路の実現	・キャリア・パスポートを活用して、主体的に学びに向かう力を育てる。 ・生徒一人一人が自分の適性を理解して、早期に進路を決定して、希望する進路の実現を図る。
教育活動などの積極的な情報発信	・年間10回の新聞掲載を目標にしてマスコミに取材依頼する。 ・学校ホームページの教育活動や部活動等の記事を、適宜更新する。
働き方改革の推進	・教職員一人一人の業務について、見直し・工夫・改善・効率化を図り、負担軽減に努める。 ・会議の削減を図るとともに、完全退勤時間・定時退勤日を設定して、履行に努める。 ・1ヶ月あたりの時間外勤務45時間以内の実現を目指して、働き方改革を進める。